

農福連携の農業実践 京都南部4事業所の事例

タキイ種苗(株) CSR委員会 (技術指導員)

須江 淳起

ノウハウが目指すもの

- 福祉作業所に於ける農業の意義

利用者の良い居場所

働き甲斐のある場所である

工賃（給与）が払える経営

良い圃場環境は精神を安定させる

療育効果：四季の変化と植物の成長に接する

収穫の喜びと繰り返し作業で熟練して名人を育てる

農業の就労を目指す 働く訓練を通して就労を可能とする

農業の現場で就労が実現出来る事が望ましい

作業所ノウフクの現状

京都福祉作業所支援3年間

- ノウフクが注目されるが中小作業所では上手くいかない所も多い
- 福祉サイドは知識経験が無い農業に挑戦
- 農業知識のあるスタッフが不足、明確なモデルが無い
- 農業者の支援が少ない
- 環境は未整備

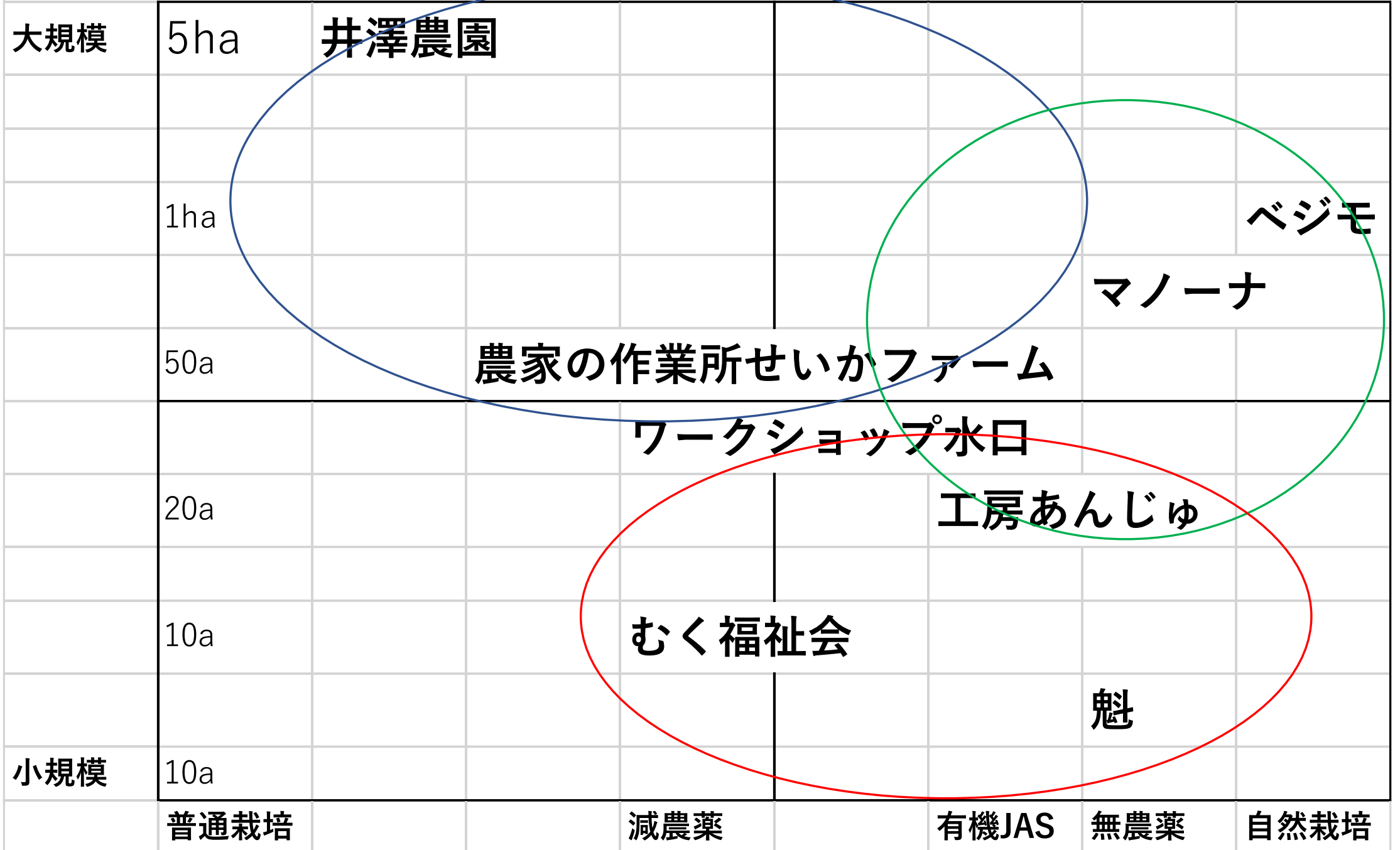
圃場、農機具、作業室、休憩場所

京都南部の4作業所を中心に支援

→施設の要望に応えながら試験、実施→最適栽培の模索

京都の立地を活かした4事業所の有利点

カフェ事業、市内でのケーキショップ野菜直売、飲食業への提供、



大規模

5ha

井澤農園

1ha

ベジモ

マノーナ

50a

農家の作業所せいかファーム

ワークショップ水口

20a

工房あんじゅ

10a

むく福社会

魁

小規模

10a

普通栽培

減農薬

有機JAS

無農薬

自然栽培

むく福祉会（宇治田原）

- 作業所は開設22年 B、生活介護40名 綺麗な100均作業、パン工房
マンションの様なグループホーム
- カフェの併設を計画中
- 部長は農業大学卒 飲食店経験者 = 飲食への販路
- 農場は6次化、美味しい野菜、名人を作る



20周年には
金澤翔子さん



むくの6次化 原材料の内製化

- 地域特産の鶴の子柿の**柿酢**、ホテル向けのキュウリ、大根**漬物**
- 2020年はタマネギ、ネギ ドレッシングを予定



美味しい野菜

・クラフトハウス、八百屋



様々な取り組み 作りやすく高単価

・ジャンボピーナッツ

6次化玉葱 スマートファーム



むく福祉会（宇治田原）

3年間の変化

①利用者の成長 技術、体力、挨拶、コミュニケーション

②収穫の喜び 毎日喜んで畑に行く

③繰り返し作業で名人誕生 漬物連携作業

唐辛子収穫、調整

紅三太収穫洗浄

④直売所、レストランからリクエストが来る

美味しい品目の選定 無理のない栽培 収穫調整出荷が丁寧

福祉作業所の一つの成功事例

農作業班の名人達

京都府宇治田原町むく福祉会

理事長 中村 祐子

むく福祉会の農業班 中央：中村理事長



農作業班の名人たち（原文）

事務所の私の席からは、毎日、朝夕に利用者の皆さんが施設に出入りする姿が見えます。

そんな利用者の皆さんのなかで、ひときわ真っ黒に日焼けした人たちのグループがあります。

このグループは、朝はあっという間に農作業小屋へと消えていき、帰りはいつも一番最後に急いで送迎車に乗り込みます。このグループこそが、農作業班の面々です。

そしてその表情は生き生きとし、自信に満ちているように見えます。

この2年ほどの間で、一番変化した作業班です。

しかし、2年前まではそうではありませんでした。

農作業に取り組み始めてから、10年近くなりますが、最初の頃は、畑作業のほとんどは職員がやり、利用者の作業は草取りと水やりというやり方が定着してしまっていました。

当然そんな仕事にやりがいや自信を持てるはずがありません。職員間でこれを何とか打開したいと思い始めたころ、きょうと農福連携センターから派遣いただいた農業指導員の須江さんと出会いました。

まずは職員が、須江さんから野菜作りを基本から学び、それをもとに利用者の皆さんの作業工程を組み立て、教えていきました。次第に利用者一人一人ができる作業が増えていき、職員の指示がなくても主体的に取り組めるようになっていきました。しょぼくれていた畑はみるみる元気を取り戻し、それに比例するかのように利用者の皆さんの表情も生き生きと変化していきました。今では、畑作業の大部分を利用者にまかせることができましました。まず職員が学ぶことで、自信がもてたこと、それが、利用者支援への熱意につながったと思っています。

何より、「農業の魅力」を、須江さんから教えていただいたことが、私たちの大きな収穫でした。

農作業班では、一つの作業ができるようになったら、「名人」という称号が与えられます。

今日も、新たな名人がまた誕生したようです。

宇治田原むく福社会
理事長 中村 祐子

むく福祉会の今後の計画

- 地域の作業所、生産者、支援者と勉強会を計画して野菜の出荷を提携
- 作業室、加工施設、カフェコーナー、直売コーナーを新設予定
- 圃場面積は30aまで増反して農地の使用権を設定できる様にする
- 農業班の増員を計画 2022年度より

- 目指す姿
有機野菜の生産と地域調達で宅配野菜と地域に根差した直売野菜
地域の人と交流できる福祉施設を目指す

工房あんじゅ：京都ライフサポート協会

はぐくむ、はたらく 豊かに暮らす

畑で野菜・果物を育て、工房あんじゅで加工し、レストラン庵樹
やパンとケーキのお店で提供する
住まいは家庭の様にくつろぎ高齢期まで安心

- 京都ライフサポートは多機能型作業所3か所、障がい者支援施設1カ所、グループホーム8カ所、児童発達デイサービス等のサービスを提供
- 利用者総数500人以上
- 工房あんじゅは有機栽培野菜 京都九条若杉でショップ、弁当
- レストラン庵樹は本格的なフレンチレストラン
- 障がい者支援者施設 横手通り43番地(庵)はユニット型の居住空間を7棟配備

レストラン庵樹 働く場所、障がい者もコースランチを頂く



横手通り43番地(庵)

最重度の知的障がいの方々などが家庭の様に暮らす



工房あんじゅ

レストランのパンやケーキ製造

野菜栽培



パンとケーキのお店「あん」



工房あんじゅの有機野菜挑戦

- イチゴ、サラダ野菜、玉葱、ジャガイモ他
- 2017年までは害虫との闘い
- 2018年から有機JAS相当の栽培開始 未申請
- 2018年は害虫がぞろぞろ 2019年は激減
- 2019年からは切り花事業で河原撫子等 生け花の池坊から絶賛
- 2020年 トマト青枯れ病克服



工房あんじゅの有機野菜挑戦

キスジノミハムシ

ダイコンサルハムシ

ヤサイゾウムシ

コウモリ蛾



イチゴ茎



切花事業（京都府農産課 少量切り花）

河原撫子

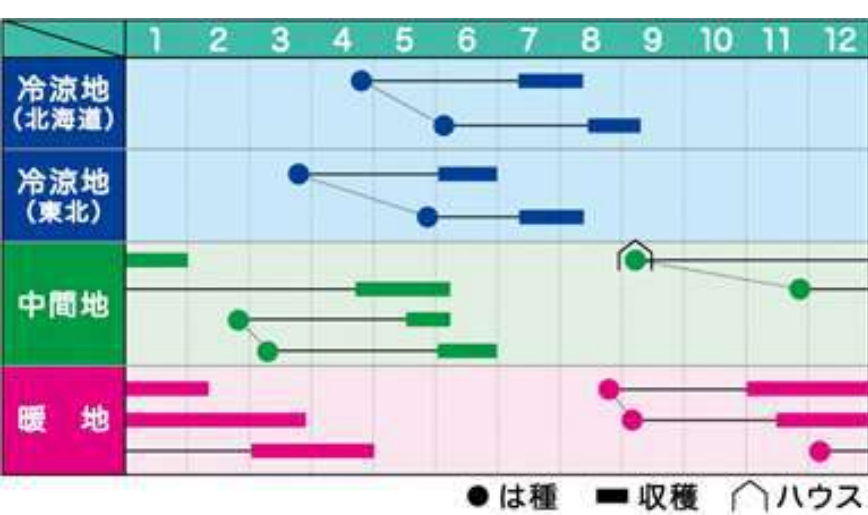


水仙



キャリアパス出前講座 スナップエンドウ

- ・1事業所対象に作物を決めて利用者とスタッフに指導
- ・ジョブトレーナーとして栽培方法と指導方法を伝える。
- ・利用者には栽培の意味と特に収穫の方法を指導。
- ・12月~2月に4回で指導。
- ・土作り、播種、管理、収穫、出荷



キャリアパス出前講座 スナックエンドウ

- ・ スナックエンドウの長期出荷 2月~5月
- ・ 利用者が安心して管理、収穫出来る品目を増やす。
- ・ 長期収穫 同じ作業の反復習熟 沢山成る 美味しい
- ・ 最終回はシェフの春のサラダを鑑賞 試食はコロナ後



工房あんじゅの有機野菜挑戦（井手町）

安定栽培を目指した土作り 緑肥、堆肥 **信楽牧場堆肥斡旋**

農場をライフサポート全体での利用

切り花事業は就労支援部署が担当 就労経験に

キャリアパス出前講座で部署を超えた農場利用



せいかファーム：農家の作業所 精華町

- 2018年12月開所 B型20名目標 **現在15名**
- 水田5haの井澤農場が母体
- 通所のB型作業所 引きこもり対策のソーシャルファームも視野
- 地域の遊休圃場を有効活用
- サツマイモ10a 春菊、冬どりスナップエンドウ他



サツマイモ

- 踏み込み温床で自家苗生産 10a栽培
- 近隣の直売所や給食では売り切れない！！
- 露地無肥料栽培で坂ノ途中、ベジモに出荷



せいかファーム：農家の作業所 精華町

目標

有機野菜に活路

- ・ 農業だけの福祉作業所 現状15名 定員20名
- ・ 無肥料無農薬無資材：サツマイモ→ジャガイモ、落花生、オクラ
- ・ 美味しい野菜：ハウスのスナップエンドウ、春菊、赤大根
有機肥料だけで栽培し有機JASに準じた栽培

→坂ノ途中とベジモに出荷

京都の有機生産者支援野菜宅配、業務卸

坂ノ途中

- 京都に拠点を置く野菜宅配サービス会社 2009年設立
- 100年先も続く持続的農業を支援 300軒の有機農家と契約
- 農薬や化学肥料に頼らない環境負荷の小さい農業の普及を目指す。
- 新規、零細農家ほど支援 集配、格安送料 栽培方法支援
- 大切に育てられた野菜は美味しい



株式会社
坂ノ途中

南山城学園

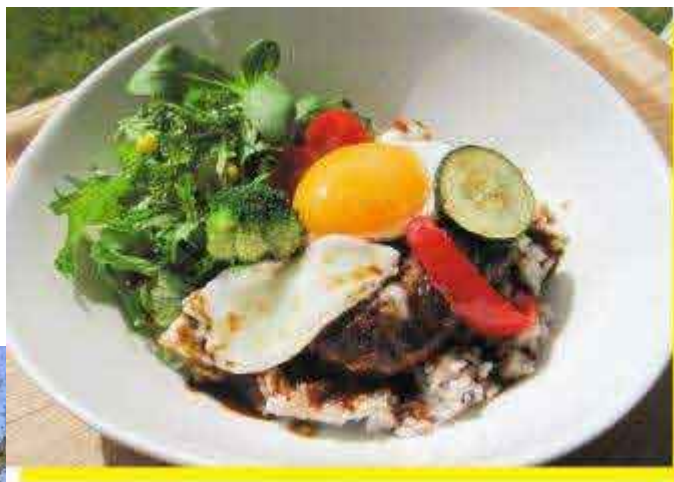
• 障がい者及び高齢者向け福祉施設 障がい者、高齢者

• 総職員数500人

• ぷらんとたん

ぷちぽんと

さびゅいえ



南山城学園魁の無農薬栽培（宇治市）

- 2018年は殆ど収穫出来ず
- 2019年は担当者の熱意で格段の進歩 カフェ出荷に無農薬の拘り
- 2019年春

2019年秋



南山城学園魁の無農薬栽培（宇治市）

- 無農薬栽培は徹底 作れる品目のみ作る
- 春作は容易：キュウリ、ナス、オクラ 次年度は+インゲン
スイートコーンは全滅

7/2



8/20



南山城学園魁の無農薬栽培（宇治市）

- 秋作は厳選：レタス、春菊、紅三太の混植 2020春人参は大豊作
- カフェ出荷はレタスは葉かき出荷、春菊も長期出荷



南山城学園魁の無農薬栽培（宇治市）

- 2019年は前年の10倍

2018年白絹病多発 利用者は収穫せず

2019年成功 利用者も収穫しないと間に合わない

2020年大成功 多収、利用者の熟練



南山城学園魁の無農薬栽培（宇治市）

目標

無農薬野菜とカフェの連動

農園へのカフェ顧客誘導

利用者の良い居場所作り 休憩所、作業室の設置

→農場の移転

現状到達点

大規模

5ha

井澤農場

1ha

坂ノ途中への出荷
有機無農薬栽培

ベジモ

マノーナ

50a

農家の作業所せいかファーム

ワークショップ水口

20a

工房あんじゅ

品目決定

名人制度

有機JAS安定化、土作り実施

むく福社会

10a

魁

無農薬実現 収量

小規模

10a

普通栽培

減農薬

有機JAS

無農薬

自然栽培

まとめ

農福こうありたい

- ①良い居場所：利用者が楽しめて向上出来る仕事
- ②社会との接点：安全で美味しい野菜の供給の自負。カフェ、マルシェ
- ③就労を目指す：訓練、援農→就労

必要なのは

- ①人 **経営者** 地域との関り 知識と体力を併せ持った農人材
- ②販路 販路の確保が先決→栽培量、農法を決定
- ③資本 民間資本導入
- ④地域連携 福と農の相互のアプローチ 作業所＋有機生産者
- ⑤顧客 健康を気遣う消費者、老人等